



地域の多文化共生を担う
市民未来大学 グローバル人材育成コース

— 知る・出会う・体験する・実践する、35週間の学び —

【内容・狙い】

- ・ 外国人住民の増加など、地域社会そのものがグローバル化する中、異なる文化や言語を持つ人と「ともに暮らす力」が求められている。
- ・ 本プログラムは、社会人が地域の多文化共生を担うための知識と実践力を、大学の専門知を通して体系的に学ぶ履修証明プログラムである。
- ・ 105分×35週の継続的な学びを、「知る」「出会う・体験する」「実践する」の3段階で構成。
- ・ 異文化理解、多文化共生、言語学、母語・第二言語習得、日本語教育等を学ぶとともに、留学生との交流や中国・韓国・フィリピン・ブラジル・ハンガリー等の異文化体験、日本語教育の模擬授業・授業実践を行う。
- ・ 「外国を知る」だけで終わらず、学びを自分の地域での行動につなげ、「私にできること」を考える市民の育成を目指している。

【参加者の声】

- ・外国人をひとくくりに捉えていた自分に気づかされました。
- ・留学生との交流を通し、講座で学んだ異文化理解を実感できた。
- ・日本語を教えることは、言葉を教えるだけではないと実感した。
- ・ここで学んだ知識を、地域で生かしてみたいと思うようになった。

【成果と課題】

- ・35週間の継続的な学びを通じ、異文化理解、多文化共生、言語、日本語教育等を相互に関連付けて学ぶことで、外国人住民や異文化に対する理解を深めるとともに、地域で自分にできることを考える機会を創出した。特に、留学生との交流や異文化体験、日本語教育の実践を組み合わせることで、講義で得た知識を実感や行動につなげる学びとなっている。
- ・今後は、修了後の学びや地域活動への接続をさらに強化し、受講者が地域の日本語教室や国際交流、多文化共生の担い手として活躍できる仕組みへと発展させたい。大学で学んだ市民が、今度は地域で学びを還元する学びの循環と地域への波及の形成を目指す。
- ・2025年4月に第一期生として開講し、2026年3月に履修証明書を16名へ交付。受講満足度は95%。

大学の専門知を市民の学び直しに



知る・出会う・体験する・実践する



市民が地域の多文化共生の担い手になる



出会う

留学生との交流を通して、異文化を身近に感じる



体験する

多様な文化を「知識」ではなく体験として学ぶ



実践する

日本語教育を学び、「私にできること」を考える

講座事業名

【内容・狙い】

テキスト

【参加者の声】

テキスト

【成果と課題】

テキスト

【様子（写真など）】

写真

写真

写真